

令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月1日 / 年度末 2月27日
氏名	神谷昌史
学科	国文学科
学科以外の兼務職	副学長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I (初年次教育)	国文学科	1
キャリアデザイン	国文学科	1
インターンシップ	国文学科	1
インターンシップ	国文学科	2
シティズンシップ論	国文学科	2
シティズンシップ論	子ども学科	2
日本国憲法	子ども学科	2

②担任制度

担任 (1年生)	無	担任 (2年生)	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	SD委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員長	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会	副委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2025 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>今年度は学科長だけでなく、副学長の職を命じられた。昨年度の学長補佐職以上に学長のサポートを行うことが今年度の第一の任務となる。日常的な業務とともに、令和8年度末の本学閉学を滞りなく行えるよう、広範な職務を行うことが今年度の第一の目標である。そのためには、教職員と常時連携していくことが重要になるため、教職員と日常的に連絡・相談・協力を行うことが第二の目標である。</p> <p>今年度も国文学科長を務めることとなり、現状では令和8年度までが任期となっている。募集停止が発表されて以来、学生には不安が積みまとうケースが増えている。そうした不安を解消し、学生が学修成果を獲得して卒業できるよう、本年度の国文学科の目標は「学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する」とした。この目標を達成するため、学生の状況を国文学科教員、さらには各所と共有しながら、学生支援に注力する。特に足元の国文学科について、教員を組織的にまとめることが昨年度も課題であったが、今年度はより一層まとめられるように取り組んでいく。</p> <p>一教員としては、授業や担任、その他さまざまな側面で学生とかかわる機会が少ないため、教職員と情報共有を密にし、直接かかわる場合に遺漏なく支援ができるようにしたい。また授業の改善を引き続き図り、少しでもよい授業を行いたい。</p>

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>①授業内容の研究と改善 担当科目数が減少したことにより、各科目について授業内容をより精査し、学生の理解度に応じた説明ができるよう改善に努めた。特に「シティズンシップ論」については、これまでの授業実践を踏まえつつ、近年の民主主義論やシティズンシップ論に関する研究成果を参照し、学生にとって身近な、あるいは考えるべき事例を取り入れながら講義内容を構成した。また「キャリアデザイン」では、進路意識の形成を目的として、具体的な事例紹介や作業課題を取り入れた。</p> <p>②教授方法の工夫 講義形式だけでなく、作文課題やディスカッションを取り入れることで、学生が自らの考えを言語化する機会を設けた。「シティズンシップ論」では、型作文の形式を用いて段階的に意見を整理できるようにし、それをもとにディスカッションすることで、多様な視点に触れられるようにした。また「キャリアデザイン」では、学生の理解度を確認しながら進行し、必要に応じて個別に補足説明を行った。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生支援と情報共有 副学長および学科長として、教員および学務課教務係、学生支援担当職員等と日常的に連絡を取り、学生の出席状況や学習状況、生活面での課題について情報共有を行った。閉学が予定されている状況のなかで、不安を抱える学生も多いため、学生が安心して学修を継続できるよう、必要に応じて個別対応を行った。</p> <p>②学科および大学運営への対応 副学長として、学長の補佐を行い、各種会議や委員会その他を通じて学内運営に関わった。特に閉学に向けた準備に関連する事項について、教職員との連絡・調整を行い、教育活動および学生支援が滞りなく継続できるよう努めた。また学科長として、学科教員間の情報共有を促進し、学生対応を組織的に行えるよう調整した。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>①授業内容の改善の成果 授業内容を精査し、学生にとって理解しやすい事例を取り入れたことにより、授業内容への理解を一定程度深めることができた。「シティズンシップ論」では、学生が社会や政治に関する問題について自らの意見を文章としてまとめることができるようになり、授業の目的である主体的な思考力の育成に一定の成果が見られた。</p> <p>②教授方法の工夫の成果 作文課題を継続して取り入れたことにより、多くの学生が一定の形式に従って自らの考えを表現できるようになった。また少人数授業の特性を活かし、学生の理解状況に応じた対応を行うことで、授業への参加を促すことができた。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>①学生支援の成果 学科教員および学務課職員との連携により、課題や不安を抱える学生の状況を把握し、必要な支援を行うことができた。特に閉学に伴う不安を抱える学生に対して、教職員が連携して対応する体制を維持することができた。</p> <p>②大学および学科運営への対応 副学長として学長の補佐を行い、学内の各種業務に対応することで、大学運営の円滑な実施に寄与することができた。また学科長として、学科教員間の連絡調整を行い、学生支援および教育活動を継続的に実施する体制を維持することができた。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	引き続き各授業について内容および方法の改善を行い、学生の理解を深められる授業を実施する。特に「シティズンシップ論」については、学生が自らの考えを表現する機会を確保し、提出された文章に対して適切な指導と助言を行う。また担当科目が限られている状況を活かし、一つ一つの授業をより丁寧を実施する。
授業以外 (学生支援等)	閉学を控えた状況において、学生が安心して学修を継続し、学習成果を獲得して卒業できるよう、学科教員および学務課職員等との連携をさらに強化する。また副学長として、学長を補佐し、閉学に向けた各種業務を適切に遂行するとともに、教育活動および学生支援が最後まで円滑に実施されるよう努める。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上